

第70回国民体育大会広報紙

vol.1

創刊号

2015



わかやま国体

だより



The 70th National Sports Festival in wakayama



よみがえ
感動、甦る。

成功させよう、和歌山国体

CONTENTS

第70回国民体育大会開催
感動ふたたび!
スポーツの祭典が和歌山にやって来る。

平成21年開催
第64回国民体育大会開催
(トキめき新潟国体)
和歌山県選手の活躍

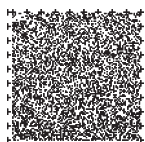
PLAYER'S VOICE
九鬼 巧選手
中尾 優里選手

競技・選手を支える人
林 三千夫氏

競技紹介「セーリング」

おしらせ情報

音声コード



音声コードは読上げ装置にて、
情報を音声で聞くことができます。

会場地市町村及び開催競技(正式・公開)



会場地市町村	競技名
和歌山市	開・閉会式 陸上競技 水泳(競泳・水球) テニス 体操(競技・新体操) バスケットボール セーリング ウエイトリフティング ハンドボール 自転車(トラック) 相撲 フェンシング 柔道 高等学校野球(硬式)
海南市	バスケットボール 銃剣道
橋本市	サッカー バレーボール ソフトボール
有田市	軟式野球
御坊市	バレーボール 軟式野球
田辺市	サッカー ボクシング 軟式野球 弓道
新宮市	サッカー 自転車(ロード) 高等学校野球(軟式)
紀の川市	サッカー ハンドボール ソフトボール
岩出市	ハンドボール バドミントン ボウリング

会場地市町村	競技名
紀美野町	ホッケー
かつらぎ町	ゴルフ
九度山町	なぎなた
湯浅町	軟式野球
日高町	ホッケー
印南町	ゴルフ
みなべ町	軟式野球 山岳
日高川町	カヌー (カヌースプリント) アーチェリー ソフトテニス
白浜町	卓球 空手道
上富田町	サッカー 軟式野球 ラグビーフットボール
那智勝浦町	レスリング 剣道
北山村	カヌー (スラローム・ワイルド)
串本町	サッカー ラグビーフットボール 高等学校野球(軟式)

【県外開催の競技】

門真市(大阪府)	水泳(飛込・シンクロ)
大津市(滋賀県)	ボート

※馬術、ライフル射撃、クレ射撃については検討中

2015

The 70th National Sports Festival in wakayama



第70回 国民体育大会開催

感動ふたたび！
スポーツの祭典が
和歌山にやって来る。

平成27(2015)年に第70回国民体育大会が、和歌山県で開催されます。昭和46(1971)年の第26回の黒潮国体から44年ぶりの開催となります。

国民体育大会(国体)は、毎年各都道府県持ち回りで開催されている国内最大かつ最高のスポーツの祭典であり、天皇杯(男女総合)

績第1位・皇后杯(女子総合成績第1位)の獲得を目指し、都道府県代表の競技者が熱い戦いを繰り広げます。
国体は、競技者のみならず、観戦する人や、ボランティアなど様々な方々が一体となって開催されます。郷土の選手を応援し、また、全国から本県を訪れる多くの選手・監督、大会役員の皆さんを温かいおもてなしでお迎えすることにより、交流の輪を広げ、夢と感動を共有し、和歌山のすばらしさを全国に発信するとともに、いつまでも心に残る大会となるよう、県民総参加による国体開催を目指しています。

競技別優勝者(1位)



競技/レスリング
種別/成年男子
種目/フリースタイル
60kg級
湯元 健一
ゆもと けんいち
総合警備保障株式会社



競技/フエンスン
種別/成年男子
種目/フルコン
やまぐち けんいち
県立たちばな支援学校



競技/弓道
種別/成年女子
種目/遠的
松本 智子
まつもと ともこ
川上・木戸総合法律事務所



競技/カヌー
種別/成年男子
種目/カヌースプリント
カナディアン
シングル200m
阪本 直也
さかもと なおや
日本体育大学(3年)



競技/フエンスン
種別/成年男子
種目/フルコン
もり あつひさ
県教育庁生涯学習局スポーツ課



競技/弓道
種別/成年女子
種目/遠的
湯川 涼子
ゆかわ りょうこ
県立神島高等学校



競技/フエンスン
種別/成年男子
種目/フルコン
坪井 浩平
つばい こうへい
県立和歌山工業高等学校



競技/弓道
種別/成年女子
種目/遠的
石本 千夏
いしもと ちか
県立日高高等学校

和歌山県選手の活躍
新潟県で開催された「第64回国民体育大会(トキめき新潟国体)」に、本県からは、陸上やソフトテニスなど32競技に266人が出場しました。和歌山県選手の成績を紹介いたします。



トキめき新潟国体

平成21年開催 第64回国民体育大会





PLAYER'S VOICE

県立和歌山北高校陸上競技部

くき 巧選手
なか お ゆうり選手
中尾 優里選手



九鬼 巧 (和歌山北高校2年)
1992年、有田市生まれ。17歳。宮原小→一文中。小学4年生から紀の国アスリートクラブで陸上を始める。

中尾 優里 (和歌山北高校2年)
1992年、有田市生まれ。17歳。保田小→一保田中。小学2年生から初島陸上クラブで陸上を始める。

県高校陸上界を引っ張る2人。ともに短距離を専門とし、九鬼選手は、今夏の近畿総体男子100メートル走で県高校初の10秒34で優勝、全国ランキングでも高校トップに躍り出た。中尾選手は同大会女子100メートル走で県高校記録とともに県記録をも更新する11秒87を叩き出した。加えて県総体では「一番好きな種目」走り幅跳びで県記録の5メートル82の大跳躍をみせた。

これにより世界各国の高校2年生のトップ選手が集う第6回世界ユース選手権(7月、イタリア)の日本代表に、ともに100メートル走で県勢で初めて選抜されたのはじめ、九鬼選手はインターハイ100メートル走で優勝を成し遂げ、新潟国体少年男子Aで2位に。中尾選手も少年女子A100メートル走3位、少年女子共通走り幅跳びで6位入賞を果たした。

九鬼選手は、「陸上をしていない人からみれば走ってタイムを計っているだけかも知れないが、100メートルをどれだけ速く走れるか、取り組み方がいっばいあってそれを考えてい



(写真上)今夏の県高校総体100メートル決勝で優勝した九鬼選手
(写真下)今夏の県高校総体女子走り幅跳びで県新記録の大跳躍をみせた中尾選手

る時や成果が出せた時が喜び」と魅力を口にする。小学2年生から陸上筋で進んできた中尾選手は、「普段の生活の中に必ずあった」という陸上競技は切り離せない大切なもの。大会での県外選手らとの出会いも楽しみの一つで、「陸上をできることが誇り」ときっぱり。それだけに今夏初出場したインターハイで、100メートル走決勝に残れなかったことについて、「悔しい、来年は決勝で自分の走りをみせたい」と捲土重来を誓う。

2人にとって国体は、ともに中学時代から経験してきた舞台で「お祭りみたいな感じ」と九鬼選手。「慣れもあつて緊張せずリラックスして臨める」と中尾選手。和歌山国体開催年は、順調にいけば大学を卒業したばかり。地元での就職を望んでいる九鬼選手は、「何らかの形で貢献したい。選手として走れるのが一番だが、そうでなくてもサポーターや裏方として関わりたい」と考える。また、

地元開催は「プレッシャーになるかも」と話す中尾選手だが、それでも「きっとみんなの応援が力になる」と信じ、大声援の中で「走ってみたい」と思いを馳せる。

競技・選手を支える人

今春の全国高校選抜で団体初優勝を飾った和歌山信愛女子高のソフトテニス部。その勢いに乗ってインターハイでも団体を制し2冠を獲得すると新潟国体では準優勝。改めて強豪・信愛の名を全国へ印象つけた。



(写真左)日が落ちたコートで選手らを指導する林監督
(写真右)選手らのラケットのカット張りも指導者の仕事

「良い選手の県外流出を食い止めたい」。中学校の恩師の紹介で信愛への就任を決めた時に誓った。今では県内外の中学女子トップ選手の憧れのチームだ。

チームは、団体を最後に新旧が入れ替わる。「年々キャラが違う」選手たちをスタイルや雰囲気、性格、そして「空気や色」も考えてチームづくりをしていく。「思うようにいかない」のは毎年のことだが、「譲れない一線」がある。努力し続けること、手を抜かないこと、それは「自分に対してウソをつかないこと」。練習で頑張っているように見えても学校生活がおろそかだと「目的、目標は必ずぶれてくる」。練習時間に比べれば学校生活は倍以上。「環境が人をつくる」ならば学校生活での姿勢も練習と同じく真摯でなければならない。「その意味では信愛という学校そのものの環境がいい」ことも選手らの成長を後押ししてきた。

高校生活最後の大会である国体は「余裕をもつてリラックスして臨めるから一番パフォーマンスができる舞台」。選手、観客、老若男女全ての「まとまり感」が好成績につながると信じ、地元国体の盛り上がりに期待している。



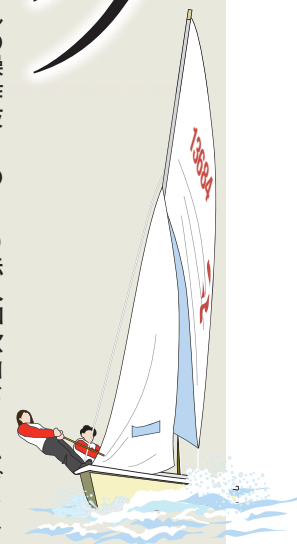
和歌山信愛女子短大附属高校ソフトテニス部監督
林 三千夫氏
はやし みちお

1970年9月17日、和歌山市生まれ。39歳。1993年に和歌山信愛女子短大附属高校に社会科教師として就任。2年間のコーチの後、98年から監督。団体戦で全国選抜優勝1回、インターハイ優勝2回、国体優勝1回など。元全日本ソフトテニスナショナルコーチ。07年度から全日本女子U-18監督。

シリーズ

競技
紹介

セーリング



技と呼ばれていた。セールの操作技術に加え、自由気ままに吹く風を読む力も大切。波や天候によってレース展開も左右され、セーリングほど自然の影響を受け、自然が相手のスポーツはない。

和歌浦湾望む国内拠点・和歌山セーリングセンター（和歌山市毛見）08年にナショナルトレーニングセンター認定

風、波、自然相手のスポーツ 第1回大会から国体競技

セール（帆）に受ける風を動力に、海上に設定されたコースで順位を競い合うセーリング競技。複数回にわたるレースにおいて、その順位が得点となり、合計点の低い順に上位となる低得点方式を採用。男女別で争い、セールの大きさと数、ハル（艇体）の長さ、一人乗りか二人乗りかで種目が異なり、ウインドサーフィンは種目の一つ。国体競技に第1回大会から採用され、当時はヨット競

そんなセーリングの国内拠点が和歌山セーリングセンター。2008年5月、セーリング競技国内唯一のナショナルトレーニングセンター（NTC）として文部科学省の認定を受けた。NTCは日本トップレベルの競技者用トレーニング施設で、競技別に設けられJOC（日本オリンピック委員会）が運営する強化施設。温暖な気候と比較的安定した和歌浦湾の海況、本州の中間に位置し関西国際空港にも近い利便性などに加え、自治体の協力体制が整っていることなどが評価された。

センター施設にはマストを立てたまま艇を収納できる艇庫があり、高さ13メートルの自動シャッターは国内最大。ミーティングルームやトレーニングルームも庫内に併設。練習艇も充実していて、センター指定管理者

のNPO法人和歌山セーリングクラブが「手ぶらで練習に来られるのは国内ではここくらい」と誇るようにハード面も国内随一。

同クラブが「これまで日本各地に分散していた戦力の集中ができ、指導の三元化もできる」と期待するようNTCの創設は日本セーリング界にとっても大きなメリット。「日本のトップ選手の多くが和歌山で練習することになるし、ユース選手のほとんどがここに来る」とセーリングの「メッカ」になる可能性を強調。すでに国際大会、国内主要レースの開催地となっていて、今年は国内最多の11大会が開かれる。競技艇の航跡を分析するため、GPSを用いたシステムを開発し、陸上でレース展開を見ることができるよう設備も導入した。

世界のトップレースと選手を間近で感じることでできる国内拠点として動き出したセンター。今後は開所から続けるジュニアヨットスクールなどの普及活動やゴールデンキッズなどを対象にしたジュニア層の育成にも力を入れていく方針。和歌山国体を契機に選手の育成と強化、施設の充実を期待を寄せる同クラブは「セーリング競技の活性化は和歌山から」とアピールする。

2015 わかやま国体だより

創刊号 2009年11月発行

第70回国民体育大会和歌山県準備委員会事務局
(和歌山県国体準備課内)

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
TEL.073-441-2015 FAX.073-427-5377
URL <http://www.wakayama2015.jp/>
E-mail wakayama2015@onyx.ocn.ne.jp

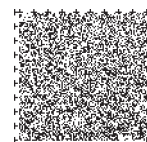
ホームページは、

みなさまのご意見・ご要望をお待ちしております。

おしらせ情報

国体にまつわるエピソード・ 応援メッセージ募集!

黒潮国体をはじめ、毎年開催されている国体でのエピソード（参加した、応援した、感動したなど）や応援メッセージを募集しています。お寄せいただいたエピソードやメッセージは和歌山国体ホームページで紹介させていただきます。



この印刷物は環境に配慮して大豆油インキを使用し、ユニバーサルデザインの考え方で作られています。